The Academic Society of Japanese Garden News

日本庭園学会ニュース

No.55
平成 19 年度 春

平成 19 年度全国大会特集号

発行　日本庭園学会（会長 中島 宏）
〒 150-0041 東京都渋谷区神南 1-20-1
（有）造園会館気付
TEl(03)-3462-2850 FAX 03-3464-8465
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/asjg/

南北朝～室町時代の園池導水口を確認

栃木県足利市樺崎町　史跡 樺崎寺跡

史跡樺崎寺跡 (栃木県足利市樺崎町) では、保存整備に伴う平成 18 年度の発掘調査が行われ、園池西北側において八幡山裾の湧水を集める導水路と園池との取り付き部分である導水口が確認された。本遺跡では、今までの発掘調査によって園池が北東と南西に伸び、北東にある樺崎川から水を導く導水路と西側山裾の水を集めて園池へと導く導水路の 2 系統から水を引き入れたことが確認されており、園池へ水を注ぐ導水口の存在が想定されていたが、今回の発掘調査によって、西北側導水口の具体的な姿が明らかとなった。

導水口は、園池 3 期とされる南北朝 ~ 室町時代のもので、現在も使用されているヒューム管の真下から確認された。したがって本庭園は、中世から現代まで、ほぼ同じところから水を引き入れていたことになる。

導水口の特徴は、洲浜状に全体に小礫を敷き詰めていることである。調査当初は、毛越寺の庭園で見られるような景石を組んだ滝口があるのではないかとの想定をしていたが、予想はみごとにはずれた。緩やかな傾斜をもつ小礫を敷き詰めた雅な造形の導水口だったのである。　(大澤伸啓)

< 第 6 面に関連記事 >

【史跡 樺崎寺跡】

源姓足利氏二代目足利義兼によって創建されたと伝えられる中世寺院の遺跡。義兼が奥州平泉での戦いの戦勝を祈願するため、樺崎の地を伊豆走湯山の理真上人に寄進したのが寺の始まりとされる。昭和 59 年度からの発掘調査の成果等に基づき、平成 13 年 1 月、国の史跡に指定された。

日　程	平成 19 年 6 月 16 日（土）　**研究発表会・総会・懇親会** 17 日（日）　**公開シンポジウム**
会　場	研究会 ／東京農業大学世田谷キャンパス 11 号館 3 階 第 2 製図室 シンポジウム ／同キャンパス 1 号館 4 階 メディアホール
参加費	研究発表会／ 1,000 円 (会員) 2,000 円 (非会員) シンポジウム／ 無料 (但し、資料代実費)

平成 19 年度　全国大会　プログラム決定

プログラム

16（土）

10:00 - 10:30　受　付　（11 号館 3 階第 2 製図室)

10:30 - 16:00　研究発表会　(同　上)

16:15 - 17:15　総　会　(同　上)

17:30 - 19:30　懇親会　(食と農の博物館プチラディッシュ)
※会費 4,000 円・学割あり

17（日）

12:30 - 13:00　受　付　(1 号館 4 階 メディアホール)

13:00 - 16:00　公開シンポジウム
「庭園の歴史・庭園の現代
~今 日本庭園研究に求められるもの」

話題 1　「庭園の歴史」をめぐって
尼崎　博正　(京都造形芸術大学教授)

話題 2　「庭園の現代」をめぐって
進士　五十八 (東京農業大学教授)

総合討論
進 行／**小野　健吉** (文化庁記念物課)

公開シンポジウム　「庭園の歴史・庭園の現代 ~ 今 日本庭園研究に求められるもの」

東西の両雄が庭園の伝統と現在を語る

進士 五十八（東京農業大学教授）　尼崎 博正（京都造形芸術大学教授）

例年、全国大会では初日に見学会と公開シンポジウムが行われ、二日目に研究発表会が行われてきた。本年は少しばかり趣向を変えて、丸一日をかけて充実した公開シンポジウムを行うこととなった。

話題提供者には、造園研究に数多くの実績をもつ東京農業大学教授の進士五十八氏と京都造形芸術大学の尼崎博正氏を迎え、鈴木誠氏と小野健吉氏による質問・補足事項確認を交えて、庭園を巡る今日の課題及びその将来について熱い議論が交わされるだろう。

（趣　意）

今、日本の庭園が世界から、ひろく一般から注目を集めつつある。また近年、庭園の歴史に関する研究の進捗は著しく、発掘成果や研究成果、そして復元整備成果の蓄積も進んでいる。

日本庭園学会は 10 年を超える活動実績をもつ、日本における唯一の「庭園」を対象とした学術団体である。この日本庭園学会が、現代社会の要請に応えるべくこれまでの研究活動成果を元に、今何を課題とし、今後何をすべきかを問い、参加者と共に考える。

以上のような問題意識をもち、日本の庭園をめぐる過去・現在・未来を視野にいれつつ、庭園にかかわり様々にご活躍中のお二人の先生方をお招きしてシンポジウムを企画した。

この会には、学会員はもとより、広く学生や庭園に興味をもつ一般市民をも対象とし、今、そして今後、日本の庭園研究が取り組むべきことは何か、発信すべき情報は何かなど、そのフレームを明確にしていく。

■

研 究 発 表 会

発掘調査報告・歴史・整備など　全9件

平成 19 年度全国大会の研究発表は全 9 件となった。

(10:30-11:00)

1. 平成 18 年度史跡樺崎寺跡発掘調査の結果について

板橋　稔（足利市教育委員会）

概要　平成 18 年度に実施した史跡樺崎寺跡の発掘調査についての報告。今回の調査では南北朝期における園池北西部の導水路及び導水口が確認されたほか、同時期における岬全体の形状を確認することができた。これまでの調査で園池北西岸及び岬西・東岸にも礫が敷かれていたことが確認されており、樺崎寺の園池の汀は全体が角礫からなる洲浜によりきれいに修景されていたことが明らかになった。

(11:00-11:30)

2. 国史跡真壁城跡中城庭園遺構の発掘調査成果

宇留野　主税（桜川市教育委員会）

概要　史跡真壁城跡は筑波山北麓・茨城県桜川市真壁町に所在する戦国期の平城である。真壁城は本丸･二の丸･中城・外曲輪が保存され、史跡整備に伴う「中城」中心部の発掘調査において戦国末期の庭園遺構が出土した。庭園遺構は南に筑波山、北に加波山、東に菩提寺・天目山を借景とし、東西 28m、南北 14m 程の池を囲む主殿、会所、茶室と能舞台の可能性のある建物跡を検出した。この度は、戦国期・真壁氏庭園の発掘調査成果、芸能関連史料、県内の関連事例について紹介したい。

＜次ページに続く＞

(11:30-12:00)

3. 中世武士の館庭園へ禅宗寺院庭園が及ぼした影響

大澤　伸啓（足利市教育委員会）

概要　中世武士の館における庭園は、奥の空間で会所に付随して造られていた。このスタイルは、室町幕府の三代将軍・足利義満の時代に完成したとされている。そのさきがけをなし、影響を及ぼしたものは、鎌倉における禅宗寺院庭園の空間構成であった。

(12:00-12:30)

4. 高遠城の庭園

佐々木　邦博・大窪　久美子（信州大学農学部）

概要　桜の名所として知られる高遠城は、城趾中 1,500 本の桜が満ちている。16 世紀に武田信玄により築かれ、戦いの舞台となった。江戸時代には高遠藩の中心地となり、明治維新後には公園化されている。かつての建物は藩校であった進徳館以外残されていない。ところで、この城の中に庭があったのかどうかについては、知られていない。そこで、残されている 91 点の城絵図から、城趾に存在した庭の場所とその姿を探った。その結果、以下の三点が明らかになった。本丸の建物の南側に庭があったこと、南郭は池や四阿がある庭園だったこと、また法憧院郭と二の丸の間の堀切に蓮池があったことである。今後の城趾整備は、この点をふまえて行われる必要がある。

昼　食＜ 12:30-13:30 ＞

(13:30-14:00)

5. 日本庭園における三尊石組の黄金比率に関する研究 (第 2 報)

堀澤　真澄 (舞鶴市文化財保護委員)

概要　演者は、平成 18 年度全国大会において福井養浩館の護岸三尊石と丸岡町千古の家庭園の景石三尊石は、両脇侍石の外側を結ぶ線に対して、黄金比分割点が中尊石の左端にあることを示し、平成 18 年度関西大会において、地上に残存している古庭園の中で重森三玲･完途･斎藤忠一の著書で三尊石と明示している写真を対象として相似の原理を使って江戸末期までの 45 の三尊石ならびに龍安寺石庭の横三尊の測定をし、それらの中尊石に黄金分割点があることを報告した。今回は同様に三尊石組を線による比例すなわちユークリッドの外中比をもちいてスイス製デバイダーを用い中尊石の高さと両脇侍石の高さの間に黄金比例があるかどうかを検討した。

(14:00-14:30)

6. 名勝常徳寺庭園と雪舟

鈴木　誠（東京農業大学地域環境科学部造園科学科）

概要　雪舟は多くの山水画を残した一方、彼が手がけたとされる庭園として 100 以上の庭が全国で名乗りをあげている。中でも雪舟に関わる国の名勝庭園は常栄寺庭園 (山口市)、万福寺庭園 (益田市)、医光寺庭園 (益田市)、旧亀石坊庭園 (福岡県添田町英彦山)、そして 1999 年に指定を受けた山口県阿東町の常徳寺庭園の 5 ヶ所である。本論考は現地調査と絵画資料とを基に考察し、常徳寺庭園と雪舟作「秋冬山水図」との間の酷似する関係を指摘した。

(14:30-15:00)

7. 名勝無鄰菴庭園を事例とした文化財庭園の修理及び整備に伴う構造分析の試論

今江　秀史（京都市文化財保護課）

概要　文化財に指定・登録された庭 (文化財庭園) の修理及び整備は、多業種の数多くの人々が長い年月かけて成し遂げられる共同作業であり、それを円滑に進めるためには、関係者の共通認識と意思疎通が欠かせない。本論は , 名勝無隣庵庭園を事例に、庭園一般の根源的特質の探求を行いながら、文化財庭園の修理及び整備に携わる人々の共通認識と意思疎通に供する構造分析の方法を探求する。

(15:00-15:30)

8. 近代的庭園デザイナー・小平義近とその作品

粟野　隆（奈良文化財研究所）

概要　本稿では、宮内省内匠寮で活躍した明治時代の近代的庭園デザイナー・小平義近 (1845~1912) について、その人物史と主要設計作品の整理をおこない、近代庭園史における彼の位置づけをこころみた。小平義近は特に明治神宮旧御苑の築造 (1884) 以降、片山東熊、木子清敬といった内匠寮の近代建築家と協働しつつ、宮廷庭園のデザインに和洋折衷スタイルとしての芝庭の形を確立していくのだった。

(15:30-16:00)

9. 中国における庭園舗装の特色

河原　武敏（元東京農業大学教授）

概要　自然に倣いしかも自然を許さない中国庭園の舗装は、種々の材料を用いて、様々な華麗な模様を作り、その足元の人工美は中国庭園の注目すべき特色を示している。従って中国庭園を理解し鑑賞するには欠かせない知識である。本文は、まず中国人の園路舗装発達の沿革、次いで舗装計画の基本的考え方、舗装の種類、その工法と実例をもって、その特色を明らかにする。

終　了＜ 16:00 ＞

学会長再任にあたって

中島　宏

この度､理事の御推挙による会長再任にあたりまして、ご挨拶申し上げます。

本学会は、平成４年６月以来15年の活動実績をもつ、日本における唯一の「庭園」を対象とした学術団体であり、「日本庭園とそれに関わる研究の連絡提携および促進を図り、もって日本庭園の発展と社会的啓蒙に貢献する」ことを目的に掲げ、建築学、造園学、考古学、歴史学、宗教学、文学など多方面からのアプローチと広範囲の視点から、これまでも研究大会、関西大会、シンポジウム、定例研究会、現地研究会、講習会、見学会その他諸行事を開催し、学会ニュース、学会誌や図書の刊行、海外学術諸団体との提携等幅広い様々な活動を展開してまいりました。平素から会員の皆様にはご指導ご協力を賜り感謝申し上げておりますが、学会が抱えるこのような幅広い活動を精力的に展開してきた理事や委員の諸氏にも、深く感謝と敬意を表するものでございます。

さて、我が国で生まれ育ってきた独自の文化としての日本庭園が、国内外から注目を集めている今日、その意義の深さと未来のはるけさを思いますと、学会長としての責任の重さを実感いたします。同時にまた、日本庭園学会設立以来培ってきた良き伝統を尊重しながら、設立時の趣旨を再確認し、改めて学会の活性化及び会員の満足度向上を目指しまして、理事会、委員会で議論を重ねつつ様々な施策を展開し、学会をより大きく発展させ、社会貢献していくためにも、引続き全力で取り組んでまいりたいと思っております。

まず、変貌する環境の変化や会員のニーズに的確に対応できるように組織・体制を充実強化し、意欲にあふれた会員の参画･協働を得ながら、研究会、シンポジウム、講習会、見学会など研究・活動を活発にし、多くの人々との交流を促進するように今後も諸活動を継続発展させてまいります。

次に、様々な分野における国内外での古庭園の発掘調査や研究及び修復・復原等、会員皆様の日頃の勉励により、庭園史に関する調査・研究が著しく進んでいる業績や貢献に対して、日本庭園学会賞への応募や、学会誌への論文・報告文等の投稿及び研究発表をしやすくするための、環境づくりをさせていただきます。

さらに、会員はもちろんのこと、学会の普及、会員の増強のためにも学会ニュースやホームページの充実、それらの連携強化を図ることによって、学会情報等を分かりやすい方法でタイムリーに提供できるよう、情報共有化の体制づくりや仕組みづくりをしてまいりたいと思います。

このような取組みのもとに、微力ではございますが、全力で責務を全うする所存でございますので、本学会を支えてくださっている国内・国外の会員皆様方には、今後ともなお一層のご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げまして、私の再任のご挨拶とさせていただきます。

■

会員の活動紹介　1

恵泉女学園大学園芸文化研究所公開講座
「多摩の自然と植物をみつめる」　講師　宮内　泰之
第３回　奥山の植物（高尾山）

自然の宝庫高尾山では、沢と尾根、麓と山頂付近など、地形や標高の違いによって、生育する植物も変化する。植物を通して環境を見渡す講座。

日　　時　６月９日（土）　10:00～
集合場所　京王線高尾山口駅改札付近
定　員　20名　申込締切：開講日前月曜日16:00まで
持ち物　お弁当、筆記用具、山歩きのできる服装
　　運動靴、天候次第で雨具
参考図書　『山渓ハンディ図鑑１～５、野に咲く花シリーズ』（山と渓谷社）
交通費　自己負担
連絡先　恵泉女学園大学研究所事務室（公開講座担当）
　　TEL:042-376-8332／FAX:042-376-8426

＜**秋期講座予告**＞
第４回（９月）：里山と湿地の植物（小山田緑地）
第５回（10月）：河原の植物（羽村堰付近）
第６回（11月）：海辺の植物（江ノ島）

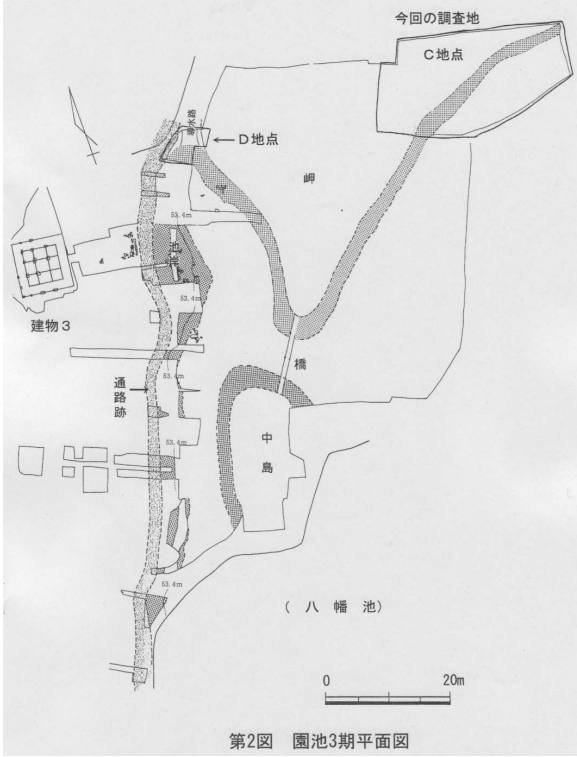
園池北岸岬の全体像が明確に

史跡樺崎寺跡　埋蔵文化財確認調査

平成 18 年度の保存整備に伴う園池の発掘調査は、西北側導水口部分 (D 地点) と園池北東部 (C 地点) の 2 ヶ所について行なわれた。D 地点では、幅約 3.4m、深さ約 40cm の南北方向の溝跡が、そのまま園池 3 期の池岸に取り付いていることが確認された。溝跡の底面と側面には 15cm 大のチャートの割石が敷かれており、園池へと取り付く部分は、洲浜のように緩やかな傾斜をもってそのまま池底へつながっている。溝跡の西岸は園池の西岸へとつながり、東岸は緩やかに開きながら岬へとつながっている。今までの調査で、史跡樺崎寺跡園池では、北東の樺崎寺川からの水路をメインの遣水として、西北の八幡山裾からの湧水を導く水路が副次的なものと考えられていたが、今回西北部の導水口が確認されたことにより、後者の具体的な姿が明らかになったのである。その造形は、園池護岸の洲浜とほぼ同じもので、洲浜と一体となっていたことが判明した。

園池北東部 (C 地点) の調査では、岬北東部護岸の状況が明らかになった。護岸の傾斜角度は、約 30 度であり、15~20 度程度であった園池西岸よりもかなりきつくなっている。護岸の一部には 5~20cm 大の石が敷かれているが、池底からの立ち上がり付近にも転落したと思われる石が多く確認され、本来は全面に石が敷かれた洲浜であったものと考えられる。この付近の池底の標高は、52.9~53.1m で、水面高は約 53.4m である。したがって水深は 30~50cm と非常に浅いことが確認された。北東端の調査では、園池北東部導水口の確認が期待されたが、今回の調査区ではそこまで至らなかった。より東側に導水口があるものと考えられる。

平成 18 年度までの調査で、園池北岸岬の全体像が明らかになった。また、西北部の導水口が確認されたことは、今後園池整備に関する基本設計を行う上ために重要な成果である。



第2図　園池3期平面図

現地研究会のお知らせ

「名古屋市徳川園庭園」　平成 19 年 7 月 7 日（土）

見学場所　名古屋市徳川園庭園
所 在 地　名古屋市東区徳川町

日　　時　平成 19 年 7 月 7 日 13 時 30 分集合
講　　師　野村　勘治氏 (本学会理事)
参 加 費　無　料
　　(入園料実費 300 円は各自ご負担ください)

交通案内　名古屋駅前の市バスセンターより基幹バス 7 番乗り場 光ヶ丘行き乗車
　　徳川園前下車 北へ徒歩 2 分 (案内板あり)

申し込み方法
葉書にて〒 462-0847 名古屋市北区金城 4-7-7 澤田庭園研究所気付日本庭園学会見学会委員会 (担当理事 : 澤田天瑞) あてまでお申し込みください

備　考
徳川園には徳川美術館があり、尾張徳川家に伝えられた数々の名宝が展示公開されています。特に徳川家康の遺品を中心に国宝 9 件ほか 1 万数千件に及ぶ収蔵品が常設展示されています。

関西大会実行委員会（委員長　鈴木久男）では関西研究会を立ち上げ、まずは平成19年度から20年度にかけて、発埋蔵文化財の発掘調査の成果に基づき、縄文時代から飛鳥時代の庭の研究を行うことを決定した。

近年の発掘調査では，明確に庭園と認識できる遺跡に加え集落跡からも庭と想定される遺構が検出しており，庭園学の研究対象とする範囲は拡幅の傾向にある。

本研究会では，そのような現状を踏まえ、これまで意識的には庭園学の研究対象とされてこなかった集落跡における遺跡等の庭について探求を行うものである。

研究会の開催地は，けいはんな記念公園事務所の協力により、関西の古代文化圏のほぼ中央部にあたる京都府精華町の「けいはんな記念公園」を拠点とする。

また，研究会は将来の研究者を育成すること目的とし、参加者を40歳以上の「指導者組」と「U40組」,「U25組」に分け，各々役割分担をして研究会の運営を行う。

縄文時代から飛鳥時代の庭の研究会！？　2007 - 2008

庭の古代を再検討する　始動！関西研究会

日　程

第1回　平成19年7月15日（日）

研究会　「縄文・弥生時代における庭」

公開シンポジウム　「平城京と平安京の庭」第1回

第2回　平成19年　冬季

研究会　「古墳時代における庭」

公開シンポジウム　「縄文・弥生時代における庭」

第3回　平成20年　夏期

研究会「飛鳥時代における庭」

公開シンポジウム　「古墳時代における庭」

第4回　平成20年　夏期

研究会「飛鳥時代における庭」

公開シンポジウム　「古墳時代における庭」

（詳細は本紙及びホームページで告知する）

庭園学講座14　京町家の庭

京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センターでは、平成19年8月31日(金)からの3日間、恒例の庭園学講座を開催する。

なお、日本庭園研究センターは、平成19年4月1日に上記名称に変更した。

講　師・講義等の内容

中村　一

杉本　節子

尼崎　博正　「総論　町家の庭と市中の山居」

千　宗守　「都の山里」

村井　康彦　「山紫水明の都の文化」

仲　隆裕　「庭園の用と景」

小川　後楽　「煎茶の庭ーその源流ー」

中村　利則　「京のまちの家」

安原　啓示　「町家の保存活用」

佐々木邦博　「京町家における空間構成の特徴ーフランスの都市空間と比較してー」

寺本健三・**今江秀史**　「町家と町家の庭」の現在

※太字は本学会員

日　程

平成19年8月31日（金）～9月2日(日)

講義会場

8/31（金）,9/1（土）　京都造形芸術大学　学内

9/2（日）　キャンバスプラザ京都

現地研修会場

8/31（金）　杉本家、秦家、野口家

9/ 1（土）　官休庵庭園、京都府議会公舎

9/ 2（日）　角屋もてなしの文化美術館

受講料　30,000円

（昼食、現地研修会場までの費用は自己負担）

テキスト代金

3,000円（会場にて販売）

定　員　80名(先着順)

情報交換会（自由参加）

9/ 1（土）　会場：レジーナ京都

問い合わせ先

京都造形芸術大学

瓜生山エクステンションセンター

TEL (075)791-9124／FAX(075)791-9127

集中連載 「庭園探訪」 第3回

野崎家旧宅の庭園（岡山県倉敷市）

野崎家旧宅は、現在は本州と四国を結ぶ瀬戸大橋の本州側の入口となっている倉敷の児島に位置する大邸宅だ。当家は江戸時代末期にこの地で広大な塩田開発を推進するとともに、大地主として耕作地経営もおこなった野崎家の本宅にあたる。現在は「野崎家塩業歴史館」として一般公開され、貴重な塩業史資料が展示されている。なお、本庭園については昭和47年に重森三玲によって先行調査が実施され、詳細な実測平面図が作成されるとともに庭園の築造手法についても論及されているのは、周知のとおりだろう。

表書院の庭園

さて、児島の市街地を抜けていくと、街路と竜王山丘陵の裾間に、胸高ほどに構築された石垣の上に大屋根を重ねたダイナミックな建築群が目に飛び込んでくる。今回紹介する野崎家旧宅だ。敷地内には、主屋のほか、3つの茶室と6棟もの蔵が建ち並び、圧巻たる様相を呈している。

長屋門をくぐると、主屋の式台の格式にあわせて、切石により園路をしつらえた前庭が取り付き、内垣庭門奥に展開する主庭は、一転して自然石の飛石を打ち、園路構成それ自体を庭園景の主題としている。園路構成は直打ちと曲がり打ちを取り混ぜて風景を自在に展開させる装置として巧みに計算された空間デザインがなされている点が注目される。主屋表書院の縁をめぐる軒内には、10尺を超える沓脱石を桁行方向に2石、梁間方向に1石配している。これだけでも十分驚嘆に値するのだが、とりわけ園路動線の骨格を形成する踏分石には、12尺を超える巨石を豪快に使用しており、この点にはただ、たまげるだけである。さらに庭園景は区画塀に沿って複数の配石組と樹林庭を構成して庭面の飛石園路を顕在化させつつ、南側奥には築山を造成して観曙亭（茶室）を隠見させ、樹叢を屏風のごとく立ち上げて効果的かつ技巧的に木下闇を形成している。

表書院平庭西側の寄石敷と玉石敷の延段を渡ると、中座敷の庭にたっする。庭面は表書院の平庭に比較して数多く飛石を縦横に打ち、路地空間的なよそおいとしている。また、背面には築山が造成されており、その高さは人の背丈2倍はあろうかと思われるほど高いものだ。この谷筋には上部に枯滝組を設け、S字型に蛇行する枯

表書院外観

流の流腹部には自然石の石橋を渡して伝統的な枯山水表現を志向していることも特徴だといえるだろう。

また、本庭園のもっとも重要な特徴のひとつとしてあげることが出来るのが、陰陽石を庭内に多用していることだ。以前筆者が確認しただけでも、陰石は13石、陽石は6石が存在し、とりわけ観曙亭築山の枯滝組の脇侍石は、1石で陰陽和合をあらわす稀有な景石だ。その形姿も抽象表現ではなく、男女の性器を直接想起させる具象表現をとっていることが注目される。

以上本庭園については、江戸時代末期の住宅にともなう庭園としては第一級の質をもつものだが、さらに重要なことは現在に至るまですこぶる行き届いた管理がなされ、江戸末期から明治にかけての富豪層の暮らしぶりを今によく伝えていることに集約されるに違いない。

なお、本庭園を見学される場合には、野崎家塩業歴史館のホームページ (http://www.naikai.co.jp/J_MUSEUM.htm) が参考になる。ぜひともこの地を訪れていただき、庭園と建物のダイナミックな姿景を体感していただきたい。

粟野隆（奈良文化財研究所）

＜広報委員会より＞

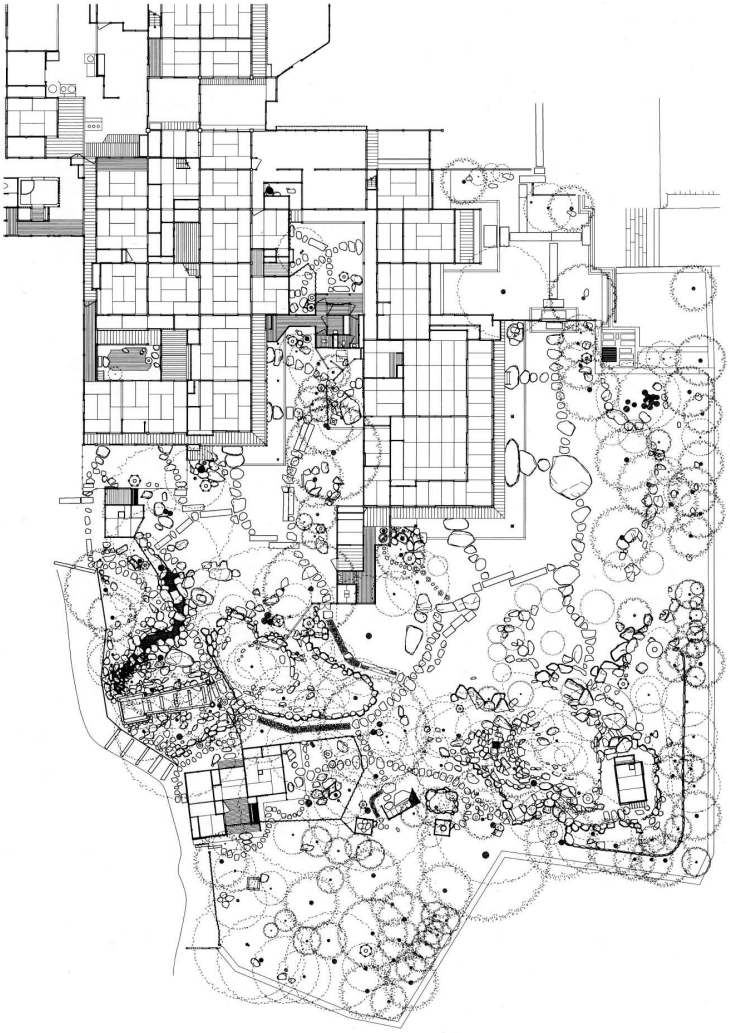
これまで「庭園探訪」は、粟野氏に多大なご協力を頂き､第3回まで連載してきました。

当初は、集中連載として、5回を目処に一旦完結する予定にしておりましたが、読者の方々にご好評を得ていることから、次号から「集中」の文字を取り去って、改めて連載記事として再出発することになりました。

日本全国には、未だ一般には知られていない庭園、または知られているけれども詳細について文書として記されていない庭園が数多くあると思われます。

本連載は、そのような庭園を幅広く紹介する場としていく所存ですので、皆様の投稿を心よりお待ちしております。

中座敷の庭園



庭園平面図

学　び　の　庭

第４回　考古学

話題提供者

鈴木　久男 (すずき　ひさお)

プロフィール

1952　愛知県西尾市生まれ

経　歴

1971　愛知県安城農林高等学校　卒業

1975　奈良大学　卒業

1976　財団法人京都市埋蔵文化財研究所

1995　同　調査課長

2007　京都産業大学　教授

専　門　考古学

編集部 (以下 , 編)　今回は、本学会員であり考古学を専門とする鈴木氏にお話をお伺いします。鈴木氏は、京都市埋蔵文化財研究所に設立時より在籍され、調査課長を 12 年間つとめられ、本年より京都産業大学で教鞭を執られております。

さて、先生は考古学のお立場から遺跡庭園の整備や修理についてご指導をされておられますが、埋蔵文化財の発掘調査（以下、発掘調査とする）の近況について教えて下さい。

鈴木氏（以下、鈴）　現在、埋蔵文化財の発掘調査体制に関する見直しの議論が全国規模で行われています。これまでの開発行為にかかわる行政発掘調査は、全国各地に設立された公益法人によって実施されてきましたが、近年、民間調査機関の参入が叫ばれ調査件数も増加傾向にあります。

ところで行政発掘であれ学術発掘であれ、調査には期間と経費は限られた枠内でどれだけ質の高い記録を作成し情報公開を実施するかが、我々の社会的責任だと思います。制約されたなかで、どれだけの成果を引きだし記録するかです。いい加減な調査は許されません。庭園についての発掘調査や立会調査についても全く同様です。

編　なるほど。

鈴　とくに文化財保護の理念に基づく庭園修復工事に伴う調査の場合、面的に掘り下げ調査は殆どなく狭い範囲内の調査ですが、層位の関係や作庭技法の解明など調査で期待される部分はその反面高いものがあります。

編　庭園の発掘調査には特徴があるということですか。

鈴　さきほども言いましたが埋蔵文化財の調査は、周知の遺跡調査で庭園の調査であれ期待されることは一緒です。いかに早くそして正確に調べ、どのようにそれを記録するかを考えなくてはありません。

編　関西でも民間企業による発掘調査への参入が増加していると聞きますが、その影響もあるかもしれませんね。

鈴　発掘調査でもこれからの記録は、平面と立面の情報では不十分です。そのため３次元によるオルソ調査をどう駆使していくかが課題の一つです。

編　オルソ調査は、醍醐寺三宝院庭園や本願寺滴翠園の調査などで行われている手法ですが、庭園学としてはまだなじみのない言葉です。そもそもオルソ調査はどのようにして行われるようになったのですか。

鈴　そもそもは、沖縄で発掘調査を行ったときに、写真画像と断面・平面の記録をすこしでもリアルに整合出来ないかを試したことに始まります。３次元情報が手に入りますし、現場で行う記録作業も簡易でしかも記録としては精度・仕上りともに良好です。

編　オルソ調査は専門の業者がいらっしゃるようですね。

鈴　います。しかし、単にオルソで撮影をすれば良いというのではなく、撮った写真を３次元情報として上手く使えるように注文するかが重要となります。

編　その注文の仕方は、庭園の発掘調査の場合であれば通常とは変わってくるのですか？

鈴　撮影そのものは大きく変わりませんが、具体的な情報として取り扱っていく上では、俯瞰の条件や目的を明確にし、３次元としてみた上での局部的な注文をしていかなければならないでしょう。

編　庭園学の立場からもそのような注文をすることはできるのでしょうか。

鈴 それぞれの持ち場、それぞれの考え方で注文をし、作業をしながらできるようになれば良いと思います。

編　話は現在の過渡的状況の話になりますが、民間企業による発掘調査への参入を含め発掘調査を取り巻く状況は変化しているのですか？

鈴　民間企業うんぬんも大事ですが、私たちがいかに限定された状況下でも調査精度を向上させ、それを活用することが重要だと考えます。仕事内容で民間とは勝負です。庭園の調査にしても、工事と同時並行でいかに精度をあげて調査で確認できるかです。いくら庭師さんに協力してもらうといっても、２週間も３週間もじっくり同じ箇所を発掘調査できるわけではないですから。

編　先に触れた醍醐寺三宝院庭園の工事でも、最初は庭師さ

んもかなり困惑されていたようですが、徐々に慣れてこられてようですか、みなが経験を積めば対応できることなのかもしれません。

それにしても、発掘調査で庭園の修理に関する根拠が得られるというのは、庭園の分野では画期的な出来事だったと、個人的には思っています。これまでは絵図や写真以外に確固たる修理の根拠といえるものが殆どなかったわけですから。

鈴　そうとはいっても、調査結果について複数の人に見て貰って、その情報をどのように記録、保存していくかが重要だと思います。醍醐寺三宝院庭園の発掘調査にしても工事の進捗に伴って、よりよい調査方法を探求するうちに、結果として調査の仕方が変化しているので、最終的にその前後関係をどのように調整しまとめていくのかが課題です。その都度反省をしながら、どのようにすれば良い調査が出来るのかを日々考えていかなければなりません。

編　発掘調査の成果を伴って庭園の修理をしていく際、設計業者の方々には、一般の設計とは手順が逆になる、すなわち調査結果をもとにして復元方法を検討して、最終的に完成図面が仕上がるということを説明しなければならないことがあります。そのような感覚を伝えるのは、発掘調査の素養がなければなかなか難しいというのが実状です。

鈴　それは、修理の関係者が自問自答しながら次に繋げていくしかないでしょう。根拠を元にして修理するということを基本にすれば、どんな分野が関わっても大きな問題にはなりませんよ。

編　こうして研究発表会や学会ニュースなどを見てきても、庭園史には発掘調査の知見が欠かせないような状況になっています。

鈴　確かにしめる位置は大きくなっているようですね。

編　一蓮托生ではないですが、発掘調査と歩みを合わせていく必要が生じているような気がします。

庭園学の分野では庭園文化研究所の森蘊先生や村岡正先生の頃は、遺跡庭園、発掘庭園という言葉自体が珍しかった。それが今となっては、庭園を遺跡として当たり前のものとして取り扱えるようになっており、掘調査との垣根はかなり低くなっているように思えます。

鈴　発掘調査の場合 ,、部から下部に順序立てて掘り進めていくのがセオリーです。庭の調査方法は通常とは異なりますが , 庭を調査するための手法というものがあるはずです。

編　発掘調査を庭に適用する場合、庭園学の立場としてはどうしても局所に関心を寄せがちですが断、片的な調査でも敷地全体を見渡して検討しなければならないことを、学んでいく必要があります。

鈴　庭の調査として最低限着目しなければならない、記録を残さなければならないということが必ずあるでしょう。こうした庭ならではの調査方法に関しては、考古学だけでは考えが及ばないので、庭園学側から意見を出してもらわなければなりません。

編　発掘調査をする上で、どのように解釈をすればよいのか判断するのは難しいと。では、庭の修理等に関する発掘調査を検討する上では、どのようなことが想定されますか。

鈴　今 , 存在している庭園を生きた状態のまま発掘調査をするというのは、埋没した状態の庭を対象にするのとは全く違います。また、生きた庭を修理していくときに根拠となる情報を得るための調査方法と、埋没した庭の情報を得るための調査方法は自ずと異なってきます。例えば石の傾きを直すために、以前の状態がどのような状態であるかを確認するとしても、発掘調査は不向きといえますし、限界があります。

編　奈良文化財研究所には発掘調査を行うことのできる庭園学の専門家が所属しており、文化庁記念物課の調査官にも発掘の経験をもっている方がいます。こうした状況は , 庭園学の専門家も発掘調査ができることを目指したことに起因するのでしょうか。

鈴　おそらくそのような考えや傾向あったと思われます。事実、これまでも発掘調査を経験し名勝分野の調査官が数々の遺跡庭園を整備されました。しかし、庭園の専門家が発掘調査を経験する機会は , 現実的には少ないのが現状です。

編　庭園学は、いわば過渡期にあるように感じられます。庭園学と発掘調査についても , 森先生や村岡先生が始められた頃から , 庭園の専門家が直接発掘調査に携わるようになり , 現在は発掘調査の結果を根拠とした庭園の修理が始まっているというように , 変遷がみてとれます。

鈴　森先生や村岡先生が庭園の発掘調査を始められた頃はいうなれば黎明期です。その時期を第 I 期とすれば、奈良文化財研究所で庭園の専門家が自らの手で発掘調査を行い、その経験を活かして全国各地の遺跡庭園の発掘や整備を指導した時期が第 II 期といえるでしょう。そして、修理に伴って調査した知見が積極的に工事で反映されはじめた今日は、第 III 期となるでしょう。こうした流れは進化でも後退でもなく、関係者の意識が変わってきた結果なのだと思います。

編　実際の所、庭園学の分野だけで全てのことをやり通すことは、極めて困難だと考えられます。

鈴　やはり、それは調査方法の確立に当たって、施工計画・調査記録・工事の進め方などについて関係者がよく話し合い、

納得づくで進めるということが重要だと思います。すなわち、限られた期間と予算内でいかに経済的に事業を実施するかが重要だと思います。

編　最後になりましたが、先生にとっての庭園に対する率直な印象とはどのようなものですか。

鈴　庭園に関わったのは、本当にたまたまですし、今でも本当に係わっているともいえないかもしれないくらいです。まあ全てたまたまということです。

編　長時間にわたり、本当にありがとうございました。

(平成 19 年 4 月 10 日)

インタビュアー：今江秀史

会員の活動紹介　2

学会ニュース 52 号で紹介した「樹仙堂庭園見学友の会」が第 2 回庭園見学会を開催する。主催は金沢・丸岡樹仙堂 (代表丸岡喜市氏) で、来る 8 月 5 日 (日) に犬山の有楽園、多治見の永保寺庭園、春日井の内々神社庭園を見学する。解説は丸山喜市氏で特別講師に澤田天瑞氏を迎える。問い合わせは〒 921-8033 金沢市寺町 3-12-17 丸岡樹仙堂 (電話・ファクシミリ 076-241-2650) まで。

広報スタッフの募集

現在、広報委員会（委員長 仲隆裕）では、本紙「学会ニュース」及びホームページの作成のお手伝いをして下さる方を募集しております。

「学会ニュース」作成では、執筆者、編集者、デザイナー、そして地域特派員を必要としております。また、ホームページ作成では、html と CSS の知識のある方、データベース作成のための調査及びデータ入力をして下さる方を必要としております。

「学会ニュース」及び興味があるホームページ作成に興味があるという方は、下記メールアドレスまでご連絡頂けますよう、よろしくお願いします。

e-mail:hideimae@mail.goo.ne.jp

今江秀史（広報担当理事）

■編集後記

平成 19 年度全国大会の開催が間近に迫ってきました。前号で予告いたしました大会プログラムの詳細をお届けいたします▼本年度の公開シンポジウムは、庭園研究の現在・未来を見据えたフレームを展望するという壮大なテーマで開催されます。このところ、文学研究や歴史研究、自然科学の分野においても「庭園」をキーワードとした学際研究が活発化しており、あらたに庭園研究に取り組む研究者、学生も増えつつあります。この機会に、ぜひ非学会員もお誘いあわせてご参加ください▼前号の後記で発掘庭園の情報をさらに掲載していきたいと記したところ、早速、足利市の大澤伸啓係長が樺崎寺の調査状況をご寄稿くださいました。樺崎寺については「日本庭園学会誌 16 号」にもこれまでの調査概要が掲載され、また今回の大会でも発表があります▼研究発表会は庭園遺跡の調査成果、遺跡整備、様式論、意匠論、人物研究などバラエティのある構成となりました。2 日間、じっくりと議論が展開されることとなるでしょう▼本年度より関西地区で例会・研究会が再開されることが過日の理事会で合意され、7 月 15 日の開催めざして準備会がはじまりました。関西の学研都市にあるけいはんな公園との共催で、庭園史の普及啓発後援と学術シンポジウムの 2 本立てです。これを機会に歴史的遺産への興味と関心を高め、新たな庭園文化を築いていく一つのきかっけになれば、と願うしだいです▼この春には庭園研究を含む注目すべき書籍や教科書が刊行されました。次号では関西大会の予告のほか、図書紹介を中心にお伝えする予定です (仲)

■学会ニュースへの投稿は下記宛にお願いします。

〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116 京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付
日本庭園学会　広報委員会「学会ニュース」係
FAX(075)791-9342

編集長／仲 隆裕　編集・構成／今江 秀史
協力／粟野 隆、大澤伸啓、鈴木久男、鈴木誠、中島宏

日本庭園学会広報委員会
委員長／仲 隆裕　委員／今江 秀史・吹田直子
〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116
京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付
日本庭園学会関西支部事務局　FAX(075)791-9342